

五竜岳

L: 川村祐 メンバー: 川村裕 (記)

5月3日、夕方5時自宅出発し、白馬のほうへ目指し車を走らせる。安曇野インターを降りてしばらく行き、コンビニにてかごに食料をつめ、いざレジでお会計というところで、財布がないのに気づく。車かな？と思って探すも無い！！今まで寄ったところの記憶を手繰り寄せ片っ端から電話して確認するも、どこも無いようで、仕方なく警察に連絡し、クレジットカードをとめてもらう。しかし、諦めきれず、安曇野インター付近で寄ったデイリーまで戻り見に行こうとしている最中、何気なく触ったポケットに「あった、、、」と見つけた。今までの騒ぎはいったい何だったんだ。自分のお馬鹿加減にあきれる。

テレキャビンの乗る辺りまで車で行って見たが、トイレがないので、道の駅白馬に戻るが、駐車場が満杯でトイレの裏あたりに車が数台止められるスペースがあり、そこで車中泊した。

5月4日、見事な快晴。こりゃ、日に焼けるな、と日焼け止めを塗る。



テレキャビンは行列が出来ていて、律儀に並んだが、登山者は乗り口付近で切符を買うので並ばなくても良かったみたい。テレキャビン往復¥1600と手荷物超過料金¥200を支払い、ぐいーんと高度をかせぐ。

テレキャビンの降り口から、さらに上に行けるリフトがあるので使わない手はないと思い一人¥380円ぐらいだったかな？迷わず支払いリフトに乗る。ここからが歩きで、今日

のテント場の大遠見山の先を目指す。

地蔵の頭を越えてからいきなりの急登で、汗が吹き出る。暑くてかなわない。

一の背、二の背、と順調に行く。時折夏道も現れていた。

小遠見山をトラバースして行く道もあったが、せっかくなので小遠見山を踏む。



鹿島槍が見える！今頃、石津さんパーティーは目指しているのかな？と思いながら見た。

中遠見山を過ぎて、最後のひと登りで大遠見山付近のなだらかな場所に着いた。

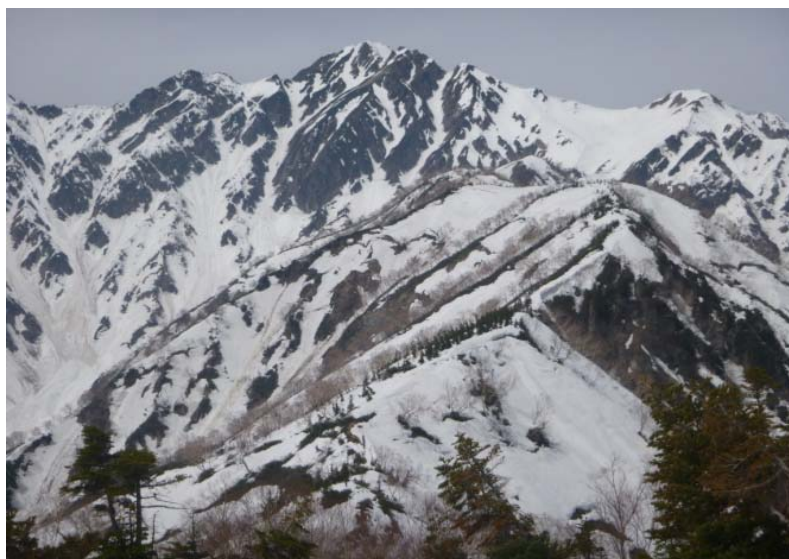
さすがGW！快適な幕営地はすでに大勢のテントで埋まっている。テントを張るスペースがあまりないので、どの辺りにするか迷ったが、他のパーティーから離れた場所に

13:00テント設営した。歩く人も多いので、トイレを工夫した。



名付けて、ツェルトイレ！これなら、見られる心配もない（笑）

雪崩が何度か発生していた。大きな音でゴォ〜と。



明日、目指す五竜岳。言われたとおり白岳を直登しよう。

5月5日、天気は荒れ、本日中止。花村さんに1日停滞する旨を伝えようとするが、昨日まで電波が入ったのになかなか入らない。天候が悪いと電波も不安定になるのかな。なんとかメールを送ることができた。



5月6日。ガスっている。行けるか分からないが行けるところまで行ってみようと思発する。

西遠見山の標識もなかったが、白岳に行く道がやっと現れた。ただ、直登する踏み跡は全くなし。トラバースの道はばっちりついている。私たちは直登して行くも、明確な直登ル

ートがはっきり見えない。雪庇に気をつけながら尾根を目指す、あと少しでというところで雪の壁に行き着いた。こんなところ行くの？と思わず聞いてしまった。どんどん時間が流れる。探そうにもガスっていて分からない。このままウロウロするより、一旦降りてトラバースの道で行くことにした。そんなこんなで、五竜山荘到着。やっと休めた。身支度を整え、五竜岳へ向かう。



ガスっている。歩いて行くと時折ガスが晴れる瞬間もあった。雪庇に注意し、歩みを進める。一步一步注意しながら歩いていく。こんな所に自分がいるなんて。どんどん斜度が増し、リーダーでも両手を使って直登している。なんとかついていく。「これからもっと（斜度が）きついわ。大丈夫？」と聞かれ、斜めに歩いて行こうと提案した。しかしそれが間違いの元だった。岩が出ていて足を悠々と乗せられる場所がない。岩をつかんでいこうと思ったがその岩はもろく、崩れそう。手の届くところは岩肌にちょっと雪がうっすらついているところ。怖い。そう思った。

ロープを出して欲しいとお願いする。「ちょっと待って」と安全そうなところをリーダーは探すもその時間が異様に長かった。ロープが来て、ピッケルをつないでいるカラビナにつけた。降りるように言われたが腕が抜けたらやばいことは分かっていたので、登ってからそこでハーネスをつける！と言い、必死に登った。やる気になれば登れた。やっぱりロープがついていると安心するのか、踏み出す勇気をもらえた。あともう少し頑張れば頂上に行ける！と思った。けど、登れるけど降りるのに時間がかかるのは分かっている。時間は13時。ここで撤退を決めた。

この急な斜面を降りる気力はなく、懸垂下降でシュ〜と降りた。下り始めると物凄い風が吹き、降りて正解だった。下りは気持ち的に楽だった。あの五竜岳の最後の辺りの登りを経験すると、とても安全な道に感じた。ふう。五竜山荘で記念に写真を撮ってもらった。



帰りは白岳を通ろう！ということで、白岳に向かう。



ここで、五竜を振り返ったが、あんなところに自分が居たとは信じがたかった。



白岳登頂！

どンドン下ると鎖が出てきた。ここだったんだ！取り付きは！トレースを見ると数メートル近くまで来ていた。あと少しだったんだ。リーダーはとても悔しがっていた。

5月7日

今日は下るだけの日。のんびり行こう。9時に出発。写真も撮ったり、途中で長い休憩を入れていたが、さくさく進め、12時には車に着いた。

今回はとても貴重な体験ができて、本当に充実していた。雪上歩行の練習もかなり出来たし、行って良かった。ピッケルの大切さも身にしみて分かった。ただ、反省点はいっぱいある。私の体力がもっとあれば、五竜岳でもっと時間が取れたはずだ。事前に白岳の情報収集をしていれば、あんなに時間はかからなかったはずだ。岩場でのアイゼントレーニングをしていれば良かった。そして、初日にもっと西遠見山のぎりぎりまで行ってテントを幕営すれば五竜岳アタックの時間に費やせたはずだ。

来年までに、体調を整え、もっと体力をつけよう。いっぱい山に行って、練習して、また来年五竜岳に挑戦しよう。そう思った。鼻の頭と右手の人差し指が軽い凍傷になってしまった。。。

(1日目) テレキャビン (8:20) アルプス平 (8:54) 地藏の頭 (9:01) 一の背 (10:06) 二の背 (10:23) 小遠見山 (10:47) 中遠見山 (11:16) テント幕営地 (13:00)

(2日目) 停滞

(3日目) 幕営地 (7:00) 五竜山荘 (11:00) ~大休憩~五竜目指す~五竜山荘 (14:15) 大休憩~遠見尾根分岐 (15:06) 白岳 (15:20) 幕営地 (17:20)

(4日目) 幕営地 (9:00) 車 (12:00)